

FOREST しづ

伊豆市立修善寺南小学校

5年生児童向け森林教室

10月17日(水)に、伊豆市立修善寺南小学校5年生児童33名を対象として、社会科授業の時間に森林教室を実施しました。

当日は、伊豆森林管理署管内の国有林の紹介や、森林のはたらき、森林と海とのつながり等について説明を行いました。



森林の働きについてどんなものがあるか、児童たちに質問してみると、「災害を防ぐ」や「地球温暖化を防ぐ」等、次々に発言があり、驚きました。今回は特に「水源かん養」の働きに重点を置いて、森林の土と裸地とで雨水の浸透の仕方を比べるための装置を使用し、水を流してその水の濁り具合を確認したほか、土に染みこんだ水のゆくえ

森林教室を実施するにあたり、担任の先生より地元である伊豆市の森林のことや、森林が豊かな海をつくっていること等について話をしてほしいという要望を受けました。

伊豆市の森林面積は約8割であり、日本の森林面積が約7割であることを考えるととても緑が豊かな地域であるといえます。

そこで、身近にある森林が持っている様々な働き(公益的機能)や、森林(木材)の利用先、木材を生産する林業という仕事について知ってもらうことを目的に当日の資料を準備しました。

最後に、伊豆森林管理署管内のおすすめ国有林(天城太郎杉、八丁池、皮子平)を紹介し、締めくくりとなりました。

今回の森林教室をきっかけとして、子どもたちにとって今まで「風景」だった森林が、もっと身近な存在になればいいなと思います。(ぴこ)

について「森↓川↓海」の流れについても知ってもらえるように海の生き物の絵等を見せながらお話をしました。

林業の仕事についてお話しすると、主伐まで長い年月がかかること、間伐や下草刈り等の手入れが大変なことにみんな驚いた様子でした。

木材の利用先について、クイズ形式で児童たちに考えてもらったところ、意外に「家」や「家具」等の大きなものではなく、「紙」や「鉛筆」といった身近なもの真っ先に挙がっておもしろかったです。(参考:1位家、2位紙、3位家具、4位 梱包材)



林業の仕事の大変さにびっくりした様子でした



森林のはたらきについての話を真剣に聴いています